地域支援センター「しせい」

第４号　地域支援センター通信【平成30年９月７日発行】

～平成３０年度　相馬支援学校特別支援教育セミナーを終えて～

講演会「発達障がいのある児童生徒の二次障害の対応と愛着障害を考える」

国立大学法人　宮城教育大学　教授　植木田　潤　氏

講演会では、福祉関係の仕事に携わる方から行政の方、保護者、保育士、小・中学校、高等学校の教員、特別支援学校教員を合わせて約１２３名が集まり、幅広い分野の方々が植木田先生のお話に耳を傾けました。

はじめに発達障がいの子供たちの二次障害について、認知処理の特異性や信念体系の歪みから行動様式の歪みに移行していく過程を図式で説明をいただきました。また実際に園や学校で“困っている”子供の特徴など、エピソードや支援方法をうかがうことができました。

その後、子供と養育者の態度から分析できるそれぞれ４つのタイプのアタッチメント（愛着）スタイルについて、実際の研究動画を見ながら、説明をいただきました。

最後に子供たちの自立―共生に必要な４つの土台・育てたい力を参加者全員で確認し、共有することができました。今後、我々との出会いにより子供たちがどのように変化し、成長していくのか、その重要性と責任感の重さを感じ、改めて合理的配慮と個別的支援の必要性を考えさせられる講演会となりました。

第１分科会「特別支援教育の視点を取り入れた国語と算数の授業づくり」

東京都立川市立第七小学校　特別支援教室担当　主任教諭　　菅原　眞弓　氏

第１分科会では、「特別支援教育サポートＢＯＯＫＳ指導計画が立てられる！特別支援学級をはじめて担任する先生のための＜国語・算数＞授業づくり」の著者、菅原眞弓先生をお招きし、国語や算数の授業中心に授業実践例や教材の紹介を多く教えていただきながら、明日からの授業づくりにすぐにいかせるご講演をいただきました。前半は、新学習指導要領での基本的な部分から、障がい特性や検査結果からの丁寧なアセスメントの重要さなどを教えていただきました。後半の国語科のお話では、文章の理解には、統合力（前の場面やストーリー全体などと関連付けて思考する）が必要であり、物語の文章をもとに、実際にペープサートを移動させたり、模型を使って上下左右の位置関係を確認したり操作して体験的に学ぶこと、その後教科書の叙述をもとに確認して学ぶことが大事であることを教えていただきました。

参加者の方からは、「現在の指導で『どうしたら良いのか・・』と行き詰まりを感じていたところに手が届く内容で、参加してよかった。」などの感想をいただきました。たくさんのご参加ありがとうございました。

第２分科会「アダプテッド・スポーツの理論
～明日から取り入れられる具体的実践例～」

リハビリテーション体育Ｒｅｐｒｏｕｄ　リハビリテーション体育士　伊藤秀一　氏

「アダプテッド・スポーツ」とは、障がいのある子供から高齢者、体力の低い方等も参加できるようにアレンジ、もしくは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般を指す言葉です。また、一人一人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツという意味があります。第２分科会では、リハビリテーション体育士の伊藤秀一先生を講師としてお招きし、「アダプテッド・スポーツの理論」の講義と実技の体験を行い、明日からすぐに支援や指導で役立てることができるような内容で企画いたしました。

伊藤先生のご講義を受けて、アダプテッド・スポーツの要点である安心できる環境づくりの「『失敗してもかまわない』という言葉掛け、運動に取り組む恐怖心や責められる要因を取り除く配慮」を学ぶことができました。また、アダプテッド・スポーツは「できた」という成功体験から達成感を味わうことを通して子供たちに自信を与え、行動の変容とつながる二次障害を防ぐ取り組みであることを知りました。実技では、体を動かすことに不器用さや苦手意識のある子供たちが、安心して楽しむことができる配慮と工夫を体験することで学び、「運動することの楽しさ」を味わうことができたと感じています。伊藤先生から教えていただいた具体的実践を今後はそれぞれの現場での実践や子供たちへの支援・指導に活かしていきたいと考えております。

※実技での参加者の笑顔、笑い声、「大丈夫、大丈夫！」と相手を思いやる言葉掛け、私たち支援者が支援をする時に大切にすることを肌で感じることができる体験となりました。

伊藤先生も著者の一人である、書籍です。
イラストでわかりすく解説してあります。

躍動感あふれる実技の様子です。
バランスボールを使った大玉転がし
ドッジボールを行いました。

第３分科会「発達障がいのある方の就労の実態と支援の課題
～具体的な事例から～」

ハローワーク相双　職業相談部門　学卒担当　　伊藤　昇子　氏

第３分科会では、高等部卒業後の進路について考えました。まず、障がい者の近年の就職件数や就職に至るまでの具体的な事例などの就労の実態についてお話をいただきました。就職件数が年々増加していることや、就職に至るまでには本人の希望や実態、抱える課題などに応じて就労支援を行っていることなどのお話がありました。また、就職するまでの準備として「日常生活・社会生活の準備性」「職業生活の準備性」「職業適合性」を高めていく必要があるというお話もいただきました。後半は、参加者の方々の体験談をもとに、幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校、保護者のそれぞれが抱える悩みや課題、取り組みなどについて意見交換を行いました。保護者の障がいの受容や療育手帳の必要性などに活発な意見が出て、とても有意義な時間でした。

将来を見据えた児童・生徒や保護者とのかかわり方やそれぞれの発達段階で指導すべきことなどについて考える、大変貴重な機会になりました。